

■2016年末の透析患者数が33万人（速報値）に迫る

— 増加は続いているが鈍化傾向 —

2016年12月末現在の透析患者数（速報値）が明らかになりました。

6月16日から横浜で開かれた日本透析医学会の総会において、全国の透析患者総数が32万9,191人と33万人に迫り、なお増加が続いていることが公表されました。前年2015年末における透析患者総数は32万4,986人でしたので、増加数は5000人台を下回り、年間約1万人ずつ増加していた2005年ごろまでと比べると、増加の伸びは鈍化しています。

また、前回はじめて減少に転じた透析施設数については、速報値のため簡単に比較することはできませんが、今回は4施設増え4,325施設でした。前回の減少は、20の都県に及んでいるので、今回が増加したとはいえ、依然憂慮される状況が続いていることが伺えます。

なお、新たに透析をはじめた患者数は、3万9,547人でした。

「確定値」および都道府県別患者数等の詳細は、12月に明らかになる予定です。

わが国の慢性透析療法の現況（速報値）

2016年12月31日現在

施設数	4,325施設（4施設増）
設備 ベッドサイドコンソール	135,015台（1,477台増）
能力 同時透析	133,309人（1,795人増）
最大収容能力	443,586人（5,195人増）

在宅血液	631人（0.2%）
腹膜透析	7,160人（2.2%）
夜間透析患者数	32,530人
2016年末透析患者数	329,191人

導入患者数	39,547人
死亡患者数	32,716人

日本透析医学会調べ

■全腎協の請願が衆参両院で採択 4年連続

通常国会が閉幕し、昨秋から全国で取り組んできた全腎協の「腎疾患総合対策の早期確立に関する請願」が、衆参両議院の厚生労働委員会で採択され、内閣へ送付されました。両院での採択は4年連続です。

全腎協のほか日本難病・疾病団体協議会（JPA）の「難病、長期慢性疾患、小児慢性疾患の総合対策に関する請願」も、両院にて採択されました。

取り組んでくださった全国の皆さんへ改めてお礼申し上げます。